

## 突破口 量的リサーチから質的リサーチへ

☆あらゆる経済領域で、変化が起きている。もちろん相変わらず、GDPという量的リサーチがベースになっているが、この優勝劣敗競争原理を支える量的リサーチでは、人間の幸せを測りきれものではないというのは、地球規模で共通の認識に到達しているだろう。

☆そう納得せざるを得ない事態である紛争、混迷、革命は、毎日のようにニュースで流されている。日本も3・11という自然災害が原発事故という人災へシフトした時、そのことを痛みとして感じる流れになっている。

☆教育も例外ではない。量的リサーチの象徴である偏差値や大学合格実績という優勝劣敗競争発想は、まだまだ使われているが、その経済的・精神的効果の実感が薄れてきていることも確かである。

☆もちろん、その量的リサーチ手法にしがみつ়く模擬試験業界やそこをニュースソースとしている教育関連メディアではある。しかし、その業界いずれもが苦戦しているのは日々刻々と明かになっている。

☆そこにしがみついていると、大変なことになるというのは、消費者はそろそろわかってきている。だから、面倒見のよい学習塾に流れが変わるかということ、実は面倒見はよいけれど、結局ベースはまだまだ量的リサーチ手法で、生徒の学力や成長を測定し判断せざるを得ないから、何がかわるかということ、コストが安いというお得感がなくなる。そうなると、学習塾業界はギリヒンになる。

☆やはり、突破口を見つけなければならない。それは質的リサーチの手法を導入することである。量的リサーチは、結局工業の品質管理や大量消費のマーケティングを支えるメソッドだった。

☆それをサービス業やデフレ時の消費マーケティングにそのまま重ね合わせても、解決しないのは当たり前だったのである。ここには、コミュニケーションという量的リサーチでは把握できないシステムがある。

☆ところが、当然ながら、サービスやデフレ時の消費者の心理は、コミュニケーションの充実・安心・意欲などへの欲求が高くなるのあるから、コミュニケーション行為や能力の質的リサーチが必要になってくる。

☆教育もコミュニケーションの充実がその根底にあるのは誰も否定しないだろう。教育が20世紀型から21世紀型になるというのは、コミュニケーションも20世紀型から21世紀型になるということだ。

☆ところで、21世紀型のコミュニケーションとは何か？それはリサーチをしてみないとわからないのである。垂直的コミュニケーションから水平的コミュニケーションへというのは、雑駁過ぎる。そんな簡単なものではない。

☆そこで質的リサーチを真剣にしなければならない。クリエイティブクラスのサービスワークは、すでに質的リサーチが行われているし、医療介護では、1960年代から粛々と実行されている。よく「見える化」という言葉が使われるが、これは量的リサーチを象徴する用語である。質的リサーチを象徴する用語はもしかしたら「測る化」かもしれない。ポートフォリオも質的リサーチの手法を象徴する用語として定着している。

☆それはともかく、医療倫理が問われている背景には、医者とクライアントのコミュニケーションをどのように組み立てるかという話があり、それを知るためには質的リサーチが必要だという話なのである。

☆初等中等教育段階の教育業界で、このことに挑んでいるところはまだまだ少ない。大学ではやっとはじまった。中高一貫校でこのことを無意識のうちに行っているのが、適性検査という名で中学入試を行っている公立中高一貫校である。この適性検査のシステムを授業や定期試験に反映しているとなると、それは本物であるが、そういう話はまだ聞こえてこない。つまり、まだまだOECD/PISAを表面的に真似しているだけである。

☆しかし、PISAはもともと質的リサーチを行っている。あの膨大なデータ集は、もちろんスコアで表現されるが、そのスコアのカテゴリやコーディングは質的リサーチの手法である。だから、表面的であっても、いずれ公立中高一貫校は必然的にそこにいきつくのである。

☆一方さすがは私立学校で、それに自覚的に取り組み始めたところがある。かえつ有明、聖学院、白梅学園清修、八雲学園、佼成学園女子がそうだ。特に八雲学園は、質的リサーチをチュータ制として確立し、学園の「教育と経営」において成功を収めて久しい。

☆しかし、まだまだ、このような学校の質的リサーチの手法の探求の重要性に世の中は気づいていない。

☆時代が転換する事態が生まれるとき、必ず先達者がいるものである。明治の近代教育以来、つねに教育のフロントランナーは私学だったが、21世紀型教育においてもやはりそうなのだ。そのことを忘れないように誰かが記録しておかねばならないだろう。

2011年6月17日(金) Good School

私立中高一貫校は質の競争必然か？

☆総務省の労働力調査から、年収階級別男子正規職員・従業員の人数割合の推移を作ってみた。本調査の階級分けは細かいので、3つにまとめて制作した。経済の回復の兆しのあった2006年を起点に、リーマンショック以降どのような推移をたどるのか……。



☆年収 500 万円以上は、世帯収入を考え合わせれば、中学受験の家庭層だろうから、この階級層から 8%から 10%ぐらいがいなくなっているのは、中学入試の市場ではかなりのダメージ。

☆その中でサバイバルする私立とそうでない私立とに分かれるわけだが、これは勝ち組負け組という発想に陥る。私立学校はただでさえ、希少価値の教育拠点なのに、こんな発想に押しつぶされてはいけない。

☆質の競争によって、私立中高一貫校全体が希少価値（真理を政府の教育政策に対峙させるという意味で）の教育拠点を保守しなければならないだろう。

☆量的リサーチから質的リサーチに思い切り転換しなければならないが、量より質だと唱えているだけでは、実際には量的リサーチの枠内で質的競争をしていることになり、モノモクアミなのである。。。

☆質的リサーチの手法を大々的に探求する意欲のある私立中高一貫校はどこだろう。公立中高一貫校は、むしろ大学進学指導重点校化し、量的リサーチの枠組みを広げるベクトルを邁進する。明確に差異が見える化されるよきチャンスであるのだが。

☆ハーバードだスタンフォードだPISA型だあと叫ぶわりには、世の中も質的リサーチを意識しない。リベラルアーツもノーブレス・オブリージュも量的リサーチのみならず質的リサーチを大切にする教育拠点なのだが。つまり、教養とは趣味ではないのである。論理であり思想であり科学であるのだが・・・。

☆嘆いてもしかたがない。まずは、質的リサーチのイノベーションを教育に織りなしていく私立中高一貫校と地道に歩んでいこう。

2011年7月13日（水）Innovative School

### 質的リサーチを学ぶには？

☆質的リサーチは、ビジネスやマーケティング、組織論でも活用されている。大量生産・大量消費・大量移動の時代はもはや過去のものとなり、クリエイティブ・クラスやプロシューマーと呼ばれる人々が質を求めるコミュニケーションを形成しているからである。

☆彼らがどんな質を互いに形成し、新市場を創出していくのか、そこで経済を牛耳る組織を構築するのか、それらを読み解くためには質的リサーチが必要ということ。

☆これは教育という、教師と生徒、保護者などのステークホルダーの言語活動の質、つま

り、コミュニケーションの質を形成していく教育拠点でも同じことである。

☆教育であれ、医療の分野であれ、ビジネスの領域であれ、質的リサーチの基本書は、

「質的研究入門―“人間の科学”のための方法論」ウヴェ フリック (著)

☆最近では新版が出版されて手に入りやすい。

☆良き入門書ではあるが、1人で読むには辛い。というのも現代思想や物語や言語分析の手法の知識が必要だからである。

☆つまり、質的リサーチが広がらないのは、世間や進路ではまったく流行らない哲学や思想系のトレーニングが少しいけないからだ。逆に言えば、質的リサーチの手法を学べば、理念や思想について考える視点が身につくのである。何も高級な哲学や現代思想の原点に触れることなしに、コンセプトについて思い描いたりデザインしたりすることができるようになるのである。

☆それゆえ、読書会もよいが、実際に授業やテスト、評価などを質的リサーチを意識して構築する共同作業をしていくと、本書の有効性が理解できるだろう。

☆下記の図式は、ウヴェ・フリックの著作よりはるかにマニュアル的なまとめをしてくれている“Qualitative Research in Business & Mnagement” (Michael D. Myers) を参考にアレンジしたが、一般にリサーチというと、データ収集から始まって、その前提になっている暗黙の思考の特性や探求方法の選択判断については、無頓着なまま。

☆質的リサーチは、価値中立に立つためには、価値中立ではないことを明らかにしてから進むのである。ここが隠されたままだと、リサーチ結果に操作性が忍び込んでいる可能性がある。どんなフィルターを通してしているのか、互いに明かにしつつ、合意を形成していくプロセスも質的リサーチの大きな特徴。



☆量的リサーチは、そのようなフィルターはないのか？いや大いにあり得るのであるが、客観的という思考停止用語が、それを覆い隠してしまうのである。

☆量的リサーチと質的リサーチの併用こそ、クリティカル・シンキングを支えるデータベースを形成するのであるが、従来の日本社会や教育は、前者に偏ったデータの扱い方をしてきた。クリティカル・シンキングが忌み嫌われてきた理由はそこにあるのではないか。

2011年7月13日（水）教育イノベーション

### 良質授業の学校を探すために

☆9月以降は、模擬試験の結果、つまり偏差値が気になる季節である。とにかく合格するかどうかは、受験生にとって一番のそして最大の問題であるから、それはしかたがない。しかし、だからこそ、冷静に世の動きを観察して、何が子どもにとって大切なのかを見極めながら、戦略を練っていくことは重要である。

☆偏差値の高い中高一貫校に合格することが目的なのか、子どもの未来にとって、よき影響を与える環境を求めるのが目的なのか。

☆少なくとも、偏差値や大学合格実績だけで、選択判断をすることは情報不足であり、そのまま判断することはあまりに近視眼的であることは、ちょっと考えれば、気づくことである。

☆学校説明会や塾などの説明で、最も情報が不足しているのは、中高一貫校の授業の質の情報である。これは、しかし、当局もよくわからない。だれも授業の質を研究していない。

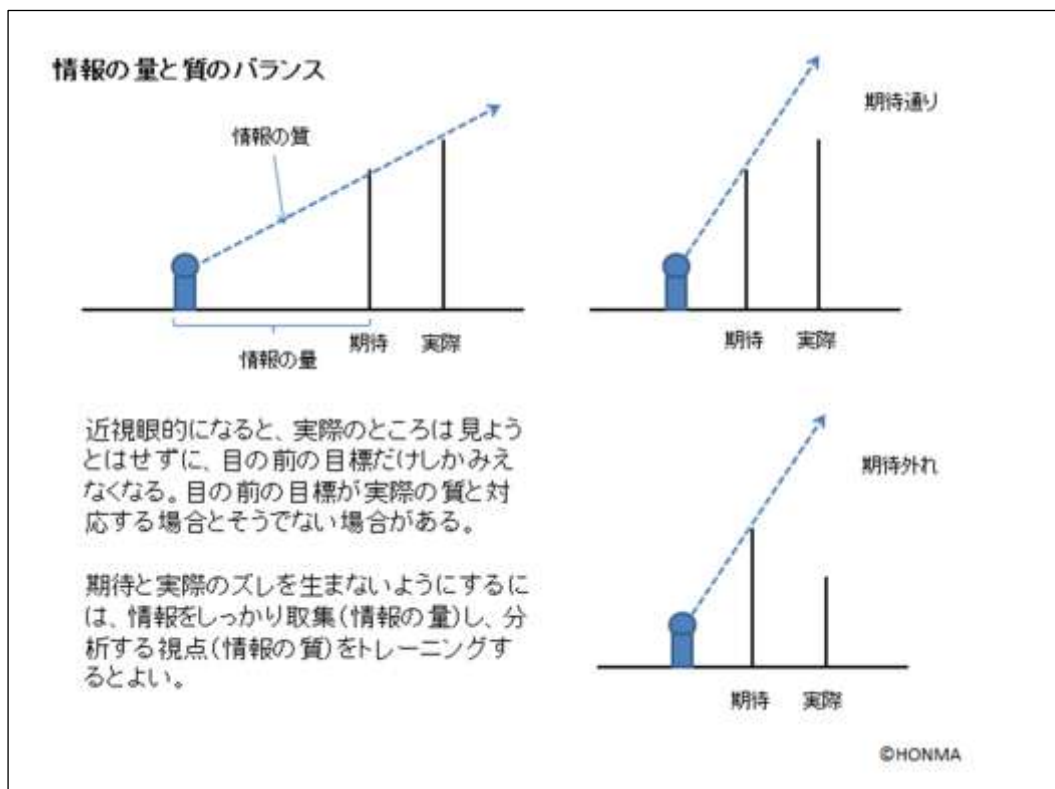
☆結果から見て、たぶん質も良いんだろうという推理だが、外れる時もあるわけだ。ではどうしたらよいのだろうか？以下のサイトでその方法論を考えていきたい。

参照記事) 中高一貫校 「授業の質を、入学前に知る方法」 01

2011年8月5日(金) Good School

中高一貫校 「授業の質を、入学前に知る方法」 01 §1 はじめに

☆中学受験生は夏期講習真っ只中、目の前のことで精いっぱいになる時期。9月以降は模擬試験の結果が一番に来るから、偏差値とそれに相関してしまう大学合格実績という量的指標で受験生も保護者も頭がいっぱいになる時期。それで、中高一貫校を選ぶとき、その2つの指標で選んでしまう。



☆しかし、これが入学後失敗だったということにつながるケースも少なくない。そしてそれがまた退学という結果になることもあるぐらいだ。それは、偏差値や大学進学実績という量的指標が、必ずしも中高一貫校の授業の質を反映しているわけではないからである。

☆なぜ授業の質なのか。それはちょっと考えれば了解できるだろう。学園生活の中で最も長い時間を暮らすのは、授業だからだ。この授業がおもしろければ、学園生活は楽しくなるだろうし、逆であれば、苦痛以外の何物でもない。

☆授業がつまらなくても部活があるじゃないかと言われるかもしれない。そうだろうか。もし部活を中心に選ぶのであれば、偏差値や大学進学実績は、第一の選択指標にはならないはずである。それはそうとして、かりに部活が盛んであれば、部活の質はよいと何によって判断するのだろうか。授業の質が期待外れでも、部活の質はよいというのは、ますます見通しが甘いのである。

☆偏差値が高いと授業の質もよいから大学合格実績もよいという因果関係は成り立たないし、部活が盛んならば、部活の質がよいのかということもまた成立しない。したがって、授業や部活の質を確かめる必要がある。しかし、それはどうやってできるのか。

☆学校説明会で、授業の質の良さをアピールする学校はない。結果から類推するのだが、そこに前述のような因果関係はないのだから、類推しようがない。部活も盛んで、大会での実績という結果をアピールする説明会は山ほどあるが、部活の質を説明するところはない。しかも、実績がある部活に関し、質がよいなどという類推を普通はしない。厳しいトレーニングもあり、厳しさのあまり暴力などもあるだろうなあというイメージがわいてくるほうが普通である。

☆しかし、なぜ偏差値や大学進学実績がよければ、もしかしたら、部活同様、厳しいストレスで心が病んでしまったり、ルサンチマンのあまりいじめが発生しているかもしれないと推理しないのだろうか。学力に対する強迫観念をいったいだれが作ってしまったのだろうか？それはともかく、このような偏った推理をせざるを得ない状態から抜け出すにはどうしたらよいのか。授業や部活の質を見破るしかないだろう。その方法について考えていきたい。今回は、まずなんといっても授業の質に絞ろう。部活のほうは、実は今年6月にスポーツ基本法が成立したので、その法律に照合すれば、スポーツ部活は判断することができるからである。文系の部活は、ほぼ授業の質と同様と考えれば、やはり授業の質の見破り方を主題にしたほうがよいだろう。

2011年8月5日 金曜日 3:38 PM イノベーション



## 授業の質の視点

☆良質授業の学校を探すには、説明会に足を運ぶ以外にないのだが、参加しても、ほとんどの場合、授業の質の話は聞くことができない。麻布学園とかえつ有明は、授業の質に触れることができる説明をするが、それとて授業の本質に触れようとチャレンジしている段階で、授業の質を具体的に説明しているわけではない。

☆もっとも、そこにチャレンジしているということは、授業の質の重要性を自覚していることのあらわれであるから、他より先んじているとは言えよう。

☆さて、『中高一貫校 「授業の質を、入学前に知る方法」 02～§2 授業の質を視るポイント』では、授業の質の視点として 3 つ挙げておいた。それぞれの中身についてはそちらを参照してほしい。ここでは、この授業の質の 3 視点の別の使い方を紹介しよう。

- ① 知識への教員のアプローチ
- ② シークエンス（授業の物語的展開）とその中で教員と生徒が知識を取り扱うプロセス
- ③ 教師と生徒のモチベーション内燃ポイント

☆この知識に対する 3 つの視点、つまりアプローチ視点、シークエンス&プロセス視点、モチベーション視点は、授業以外のパフォーマンスを評価するのに使えるのである。

☆学校説明会も、学校そのものを知識として置き換えれば、授業である。AKB48 のコンサートも、AKB48 のプロデュースのデータベースを知識 DB と置き換えれば、授業である。

☆いや逆にあらゆる人間の活動のプログラムの一環として、授業も含まれているので、上記の 3 視点を、あらゆるパフォーマンス評価の視点として活用してみることも可能かもしれない。その場合、

- ① 情報への主催側のアプローチ
- ② シークエンスとその中でステークホルダーが情報を取り扱うプロセス
- ③ ステークホルダーのモチベーション内燃ポイント

☆というように置き換えるだけでよい。

☆そうすると、学校の教育活動の情報 DB から、ただ事実を引き出してプレゼンしている

のか。社会や世界の動きの DB と結びつけたり、子供たちの心理的な DB と結びつけてプレゼンしたりしているのかチェックできる。

☆端的に何をやっているのかマッチングするだけのプレゼンに感動する保護者もいるだろうし、その学校の教育活動が世界的視野に結びつくことに感動する保護者もいるだろう。

☆これは意外と重要で、ある学校の説明会では、A という先生は、世界的視野に結びつくアプローチで話し、別の説明会では B という先生が、今度はマッチングアプローチで話をした。ある年は、A 先生が話す機会が多かった。その説明会ですっかりファンになり、入学したが、担当の先生は B 先生だった。

☆当然、入学した本人や保護者の不平不満はたまる。昨今学校の法化現象は著しい。教育理念をめぐる訴訟が起こってしまう場合がある。

☆しかし、理念問題は、証明が難しい。授業基本法でも成立しない限り、授業の中で理念が浸透しているかどうかで裁判に持ち込むのは非常に難しいだろう。しかし、重要なことは、法化現象の一つとして認識されるようになってきている局面であるということだ。

☆シーケンス&プロセス視点は、説明会の流れや説明する教員と参加する保護者との間でどのようなコミュニケーション行為が行われているかという点をチェックすればよい。

☆一方通行型か、参加型かという見方でもまずはよいだろう。保護者は情報を確認しにきているだけだと、飽きてしまう。そしてそのことがその学校を積極的に選ばないという選択指向に結びついてしまいがちである。

☆何も大がかりな参加型ワークショップをやる必要はない。その場で一緒に考えてみる情報がセットされていればそれでも十分である。

☆モチベーション視点。これが最も重要であろう。主催者側のどの仕掛けに反応するのか。反応するというのは、モチベーションがアップしているということを示唆する。アンケート調査も重要であるが、それは事が終わってしまったからのことで、せっかく参加したメンバーにはすぐには役に立たない。気遣い観察者として主催者側も説明会に寄り添っていると、その場で反応に対応できる。もしこの気遣い観察者の教師がいたと感じたとしよう。それは授業でも同じことが行われているはずなのである。八雲学園が人気があるのはそういうことだろう。

2011 年 8 月 6 日 (土) Good School

## 中高一貫校 「授業の質を、入学前に知る方法」 02 §2 授業の質を視るポイント

☆入学前の学校説明会などで、授業の質そのものを視ることはできないが、授業の質を視るポイントを知ること、その授業の質ポイントを説明会の幾つかの局面に照合することができる。

☆したがって、まずは授業の質ポイントを確認しよう。大きなカテゴリーとして 3 つのポイントがある。

- ① 知識への教員のアプローチ
- ② シークエンス（授業の物語的展開）とその中で教員と生徒が知識を取り扱うプロセス
- ③ 教師と生徒のモチベーション内燃ポイント

☆要するに「アプローチ視点」、「シークエンス&プロセス視点」、「モチベーション視点」ということ。この 3 つの視点（ASPM ポイント）が、学校説明会のどんな場面に現れているのかを観察すれば、授業の質を形作ることができるし、想定できるが、もう少し説明しよう。

☆「アプローチ視点」では、さらにカテゴリーが二分化される。それは知識の記憶装置つまり知識データベース（KDB）を整理し、瞬時に引き出して問題と解答をマッチングさせるアプローチをするのか、KDB 自体を自分で作ったり、新たな知識を見出し、新たな KDB を作っていく探求型（MIR）のアプローチをするのかに分けられる。

☆一般には暗記型と思考・表現型と言われるものであるが、実際にはその両者に記憶装置＝知識 DB（KDB）は必要であり、このような分け方は、わかりやすいが多くの誤解を生んできた。文科省まで基礎基本を知識の記憶で、その応用が思考や表現だという二分法に規定されているぐらいだ。知識の記憶の解明には実は高度な脳科学が必要であり、その知識 DB を作るための基礎基本が、人間の歴史的経験的に思考と表現だと考えたほうが実情に合う。

☆本来知識 DB は、思考と表現という基礎基本にもとづき、再構築されたり新たに構築されていくものである。それが、現状ではだれかが作った既存の知識 DB 群（たとえば、国語 DB、社会 DB、英語 DB、数学 DB・・・）を記憶することでいっぱいになり、その DB がどのように作られてきたのかという基礎基本は捨てられているのである。

☆「シークエンス&プロセス視点」は、授業は導入―展開―まとめという進行をするが、

その各パーツでどのように生徒と教師がやりとりをするのかそのプロセスによって、思考や表現の知的活動は活発化し、知識 DB の再構築とマッチングのスピードパフォーマンスも一挙にアップするのである。

☆導入といっても、目標説明型か、布石型か、伏線型か、モデル提示型か、その演出は様々。展開も弁証法型か、螺旋型か、難度積載型か、やはり演出は多様。まとめも、マイルストーン型か、見通し型か、布石型か、多種多様である。

☆「プロセス」は、教師と生徒のコミュニケーション行為である。知識を一方向的に押し付ける抑圧型プロセスか、知識を双方向的に議論しながら、その背景や関連する知識を増やしていく論理的プロセスか、一見別々の知識 DB どうしの関係づけに気づいたり、新たな知識 DB 構築の探求に踏み込む創造的プロセスか、いずれかである。論理的プロセス型のコミュニケーション行為をコーチングと呼ぶ場合もあるだろう。創造的プロセス型のコミュニケーション行為をファシリテーションと呼ぶ場合もあるだろう。

☆この「プロセス」こそ、学習だけではなく、アイデンティティや倫理などの価値観も生み出すチャンスであるが、それについてはいずれまた。

☆「モチベーション視点」は、教師の知識へのアプローチそのものにもあるし、シークエンスの流れにもあるし、プロセスにもある。それは生徒一人ひとりによって、違う。だから、よくモチベーションをアップするためには、インセンティブを明確に表現しろとか、叱らずに褒めろ、体験させよというような話になるが、それは生徒によって全く違うのである。

☆知識をマッチングさせることにモチベーションを感じる子もいるだろう。授業の展開のダイナミズムにモチベーションの燃え上がるのを感じる子もいるだろう。新たな探求プロセスにスリリングな気分を感じ、モチベーションをアップさせる子もいるだろう。そもそも全天候型のモチベーションアップ法は自己矛盾である。それは画一的方法論だからである。画一的なものこそモチベーションを喪失させるものはないということはわかっているはずだからである。

☆以上のように「授業の質の3つの視点 (ASPM)」の概要を述べたが、このような成果は私立学校の先生方と授業の研究会を行って来たり、いくつかの私立学校と共に、授業やプログラムの質的リサーチをコラボして来たりという過程を経てまとまったものである。

☆質的リサーチの方法論は、非常に深くいくつかの現代思想の見識も必要になるので、こ

の場合では説明できないが、偏差値や大学進学実績の量的リサーチだけでは教育や学校の評価をする指標としては偏りがあるという欠点を払拭できる重要な方法論であることは実感している。

☆さて、この ASPM が、学校説明会のどのシーンに適用できるのか。次回はそこから始めよう。

2011 年 8 月 6 日 土曜日 11:07 AM イノベーション

「難関大合格力がつく中高一貫校」サンデー毎日（8・14）をアレンジ

☆サンデー毎日（8・14）「難関大合格力がつく中高一貫校」の記事の一覧表を少しアレンジしてみた。難関大学に合格させる教育方法は、各学校によってさまざまであるが、大きく二つに分けてみた。（ただし、学校は、原則首都圏の私立中高一貫校を選択。灘、愛光、ラ・サール、白鷗は掲載した。）

☆そのカテゴリーは、「ドメスティックな雰囲気」の教育」と「グローバルな雰囲気」の教育」という2つ。

偏差値レンジ別 2010年度早慶上智合格実績(サンデー毎日2011.8.14から加工)		偏差値レンジ別 2010年度早慶上智合格実績(サンデー毎日2011.8.14から加工)			
偏差値	ドメスティックな雰囲気 STRx 2Ry	グローバルな雰囲気 STRx 2Tyx	偏差値	ドメスティックな雰囲気 STRx 2Ry	グローバルな雰囲気 STRx 2Tyx
70以上			54	宇星大付218 開智144	公文国際101 香蓮土44
69		関成534 筑駒150 聖10	53	清徳与野102 東洋英和77 神奈川大付59	光臨女子68 共立女子42
68	桜蔭310	森布201	52	聖都大松戸47 富士見59 東京都大付35	山手学院144 田園調布87
67	豊島岡298 聖光294	女子学院286 聖光195	51	東京女子経58 成城62 道行ラ・サール38	成成112 初音31 清泉女子院21
66		法華329 双葉大付201 雙葉202	50	国学院大柏山127 帝京大学188 滝輪72	カノラス女子60
65	津野480 駒宮256		49	品川女子学院76 成城学園97 東京農大第一-98	国府台女子学院35
64	早稲田127 御茶の水女子94	白百合184	48	西武文理113 神田館112 江戸川女子69	芝浦工大柏88 専崇13
63		フェリス女子院187	47	大妻多摩60	愛光169 茗溪48 聖心36 龍溪19
62		愛光(愛城)94	46	春日部共栄49	
61	市川312 サレジオ学院179 ラ・サール49	海城99	45	江戸川聖手268 日大第二37 成田39 菊池26	
60	本郷134 吉祥女子114	桃星132	44	日大藤沢15	
59	桐朋399 芝289 浦和明の星女子42	攻玉社266 渋谷288 錦栄198 鶴友168	43	大宮附成51 関東学院26 山崎21 明治学院19	桜美林25
58	東邦大東邦238 鎌倉154 横浜共立147	女子関成136 洗足107	42	横浜女子9	鎌倉学院21
57	昭和秀英181 鎌倉女子学院92 香山学院49	横浜雙葉150	41	東京電機24 茗荷学院16 東京純心11	芝浦工大18
56	栄東241 学園院19	星華88	40	清徳25 足立17 多摩大聖ヶ丘17 大妻中野16	神道学院18
55	大妻128	世田谷学園199 海南白百合45 立教新聖35	39以下	桐蔭242 白鷗26	桐朋女子48
	城北326 東越225 桐蔭中保137	香蘭24		星野22 十文字28 東京成徳23 相玉宗22	
				城西大付川越20 龍文館18 瑞星学院20 浦和実業17 日大第三15 浦和ルーテル13 多摩大目黒13 立正18 女子聖学院12 明星12 安田学園12 横浜12 横浜東人11 和邦国府台女子10	成成学園24 八千代松陰26 清徳学院15 聖学院11 成成学園女子10 聖徳学園10

☆「雰囲気」として「教育」としなかったのは、たとえば、海外研修という教育を行っているところとするとたいていは行って、機能的にはグローバル教育となってしまう。

☆ところが、海外研修や帰国生入試を行っていても、どうも視野が世界に広がらず、何か国内で生き抜く道具の一つとして、そのような環境を活用しているという雰囲気がある場合がある。

☆このドメスティックな雰囲気は、教育環境やテキスト、言語を道具にすぎないとかツールにすぎないという表現が目立つ場合、立ち上がる。操作性の高い表現を使う雰囲気のコミュニケーション行為が充満している学校の雰囲気は共通している。どこかストレスが高い。

☆もちろんある程度ストレスや緊張感がなければならぬが、それは自然体で創造的なコミュニケーション行為が主で、何か攻撃を受けたり、リスクをヘッジするときにストレスが高まったり緊張感が生まれるというのは雰囲気が違うのである。

☆同じ静けさでも、操作されて静かにしているのか、内燃モチベーションがフロー状態（集中・緊張状態）になっていて静かなのかは大いに違うはず。

☆道徳意識を前面にだし、学習体制を作っていくのと、知的レベルが教養主義的で、その結果として道徳意識が生まれているというのでは、全然違うのである。

☆どちらの雰囲気がよいのかは問題ではない。それは価値観の問題である。また、雰囲気などという指標をカテゴリーにするのはけしからんと言われるのもわかる。なぜなら、雰囲気を尊重するのはグローバルな雰囲気に偏ってしまうからである。つまり、ドメスティックな価値観からすれば、雰囲気は主観にすぎないのである。ドメスティックはすでに秩序が決まっているから、その秩序の規律はあたかも客観的だし、絶対であるから、そんな主観はおかしいのである。

☆しかし、グローバルな秩序はその都度ダイナミックに変わり、指標や基準もめまぐるしく変わる。それは権力の攻防に左右される場合もあるだろう。だから、クリティカルシンキングで、何が本質か根源か、現実の中で考えねばならない。

☆グローバル人材は、世界の GDP 競争で優位に立てる対策を立てられる人のみをさすのではない。そのような GDP 競争の指標はそもそも正当なのか、妥当なのか、信頼できるのかクリティカルに思考し、あるときには第三の道を想像できる人材をさす。

☆来年また PISA が始まる。また新しく PIACC（国際成人力調査）も始まる。15 歳だけでなく、成人も「知識をどの程度持っているかではなく、課題を見つけて考える力や、知識

や情報を活用して課題を解決する力など、実社会で生きていく上での総合的な力」を持っているかどうか国際レベルで調査するというのである。

☆これに対しドメスティックな雰囲気は、そうはいつでも知識がなければ、思考はできないだろうとコメントする。たしかにそうだが、その知識の客観性が疑わしいよという話なのである。それは今までのように、国や官庁が決めてくれるわけではない時代だよ、放射能の測定も、すでに被災地の農家は独自にはじめているではないか、それが何よりの兆しなのである。

P.S.

3TRXについては以下のサイトを参照していただければ幸い。

参照記事)「学校選択の3つのベクトル 01」

2011年8月8日(月) Good School

### 学校選択の3つのベクトル[01]

☆今日の日本がこのままでよいはずはない。もちろん、このままでは日本が危ないという意味は、国家財政が破たんするというようなソブリンリスクのことを言っているのではない。むしろ、逆である。あまりに欧米の経済の背景がよくなり、中国の経済発展と民主化への壁が、日本をまたも変えないという意味でリスクがあるのである。

☆ガラパゴス化とは、何ももの作り産業のことだけをいっているのではなく、日本人のものの見方そのもののメタファーでもある。このことは、世界の痛みを背を向ける、自分だけが生き残ればよいという利己的な生き方を日本人が選択するということを意味する。林成之先生によれば、利己的生き方やコツコツ言われたことだけやる生き方は、脳に悪い習慣。

☆交流がなければ、しかも学ぶ寛容な姿勢がなければ、クリエイティブな知は豊かにならないし、異なる価値観を互いに共有できなくなる。それはやがて、日本にとって、日本人にとって、未来からやってきた子どもたちにとって、よいことであるまい。成熟国家日本の衰退、死滅を、経済的側面より先に、精神的文化的に招くからである。

☆仮に利己的であってもよいが、賢い利己主義でなければならない。先人の知恵に情けは人のためならずという諺があるではないか。他者のために生きることは利己的な生き方と表裏一体である。本物の利己主義は、本物の利他主義に通じる。

☆それはさておき、目先の利益にとらわれず、遠い先まで見通し、自分たちの子どもたちのために、世界と水平交流できるような人材を育成するのはどこかという、実は大学という高等教育機関ではない。このような人材を育成する教養教育をリベラルアーツというが、この教育は中等教育段階で済ましておくことが肝要である。

☆高校段階で、すでに民主主義一プレ慣習化から民主主義一慣習化にシフトするだけでなく、民主主義一脱慣習化の段階まで進むコミュニケーション行為能力を養うリベラルアーツが必要である。この説明は、別の機会でしっかりしなければならないが、「民主主義一プレ慣習化」段階とは、まだまだ民主主義には程遠い意思決定がなされる国家のことをさし、そこで行われているコミュニケーション行為が、暴力という権力、経済という暴力、知識という権力に支配されている段階をいう。

☆「民主主義一慣習化」段階とは、民主主義が法治主義によって意思決定がなされる段階である。ここでは、この法が、リベラリズムによる正義という基準に準拠するのか、コミュニタリアニズムによる正義という基準に準拠するのか、コンサバティズムによる正義という基準に準拠するのか、リバタリアニズムによる正義という基準に準拠するのか、そういう価値相対主義のステージである。

☆「民主主義一脱慣習化」段階とは、民主主義がルール・オブ・ロー（法の支配）によって意思決定がなされる段階である。ここでは、法は、慣習化段階と違い、パースペクティブの違いによる神々の闘いを主張することをやめる。すべては現実世界における仮説的な基準に過ぎないことを了解し合い、普遍的なルールを議論によって合意形成していく段階である。

☆日本は中国のことを民主化発展途上と見ているが、それは暴力という権力がむき出しになっているからで、この権力を見えなくしている知識による暴力（官尊民卑や学尊民卑、学歴社会、死刑の存在はその典型）が蔓延している日本も実は、「民主主義一プレ慣習化」段階にいると考えた方がよい。

☆欧米先進諸国が、日本と似て非なるところは、彼らはすでに「民主主義一慣習化」段階で成熟している点である。成熟しているから、次のステージにシフトしようというのが欧米の現状である。だから核撲滅をジレンマがあるにもかかわらず、進めるのはそういうこ



となのだ。

☆国家単位では、そういう段階であるが、最終的な「民主主義一脱慣習化」段階に進むには、人材的には、すでにそこにシフトしている人材がいる必要がある。その教育をするのがリベラルアーツであり、中等教育でなされていなければならない。すでに欧米先進国の中等教育では一部行われてきている。それがイギリスのパブリックスクールであり、アメリカのプレップスクールである。それをなんとか公立の学校でというのがフランスやドイツ、フィンランド、北欧諸国の努力だろう。

☆本ブログで紹介しているAPUとAIUはそれを行っている数少ない大学であり、公立の中等教育が「民主主義一脱慣習化」段階で、暴力を抑圧的に抑えている状況を大学で改善することができる大学なのである。すべての大学がこの両大学のようにすることは不可能である。というのは、そもそもそういうリベラルアーツを行うトレーニングを受けている大学教授が少ないからである。

☆そうは言いながら、東大や早稲田、慶應、上智、ICUでなぜ「民主主義一脱慣習化」段階の人材がたくさん輩出されるのかというと、実は私立学校出身者が多いからである。60%以上は私立学校出身者であるはずだ。

☆この実態を社会的にあるいは心理学的に検証しようなどという学者が教育学部にいないことがそもそも不思議である。ここで展開しているコミュニケーション行為段階論は、そもそもハーバーマス、ルーマンなどの社会学者の研究に影響を受けているし、ピアジェの発達心理学をベースに論を展開しているコールバーグやシーモア・パパートなどの影響を受けている。フロイトやヘーゲルをベースにしているエリクソンなどの影響も受けている。

☆先進諸国では、道徳の発達、認知構造の発達、役割取得の発達のトータルな段階論を検証しているのに、日本では道徳の発達論に偏向した研究が教育社会学や教育心理学で進められているだけだ。それゆえ、暴力の精神的な抑圧的封じ込めという知識の暴力段階なのが日本の教育全般の現状である。

☆この段階では、不登校、いじめ、中退、ひきこもりなどが生まれてくるのはあまりにも当然なのである。この現象は社会構造の問題だと社会学者は指摘するが、それは間違いではないが、手続き論的システムの問題ではない。コミュニケーション行為が「民主主義一脱慣習化」段階だから、どんなに欧米の社会システムをモデルにしても、素材が違うから似て非なる現象が生まれるのは当然なのである。合法的にナチが生まれた原因は、シス

テムにももちろん欠陥があったわけだが、コミュニケーション行為論の段階がプレ慣習化段階だったということなのである。中国や日本の危うさは、まさにここにある。

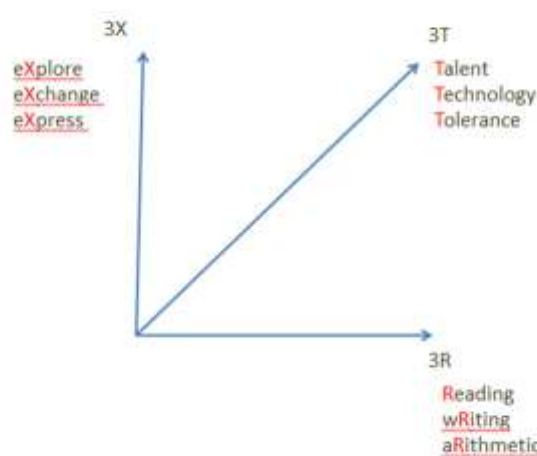
☆だから、コミュニケーション行為段階を脱慣習化段階にシフトしなければならない必然性があるのである。《官学の系譜》と《私学の系譜》をたどっていくと、大きな差異は、ここにある。前者はプレ慣習化段階で覇権を握ろうと邁進したし、後者は「脱慣習化」段階にシフトする知の環境をリベラルアーツとして保守してきたのである。教養主義とリベラルアーツの違いと言ってもよいかもしれない。

☆さて、こういう意味で、リベラルアーツとして「脱慣習化」段階へシフトするコミュニケーション行為能力を育てる学校を選択しなければならないのである。では、それはいかにして可能か？

☆そのための学校選択の仮説を、3 Tと3 Rと3 Xという3つのベクトルで考えていきたい。3 Tとは Talent・Technology・Tolerance であり、3 Rとは Reading・wRiting・aRithmetic であり、3 Xとは eXplore・eXchange・eXpress である。

☆この3 Tと3 Rと3 Xがすべてそろっている私立中高一貫校が、エクセレントスクールであり、さらにそれぞれのベクトルを伸ばしていく学校がイノベーティブスクールである。3 Tと3 Xが重視されているところはクオリティスクール、3 Tと3 Rが重視されているところは、エリートスクールという分類をしてみたい。下記の図は、本来3 Dにしなければならないが、複雑になるので、便宜上2次元で描いた。3 Tが3 Rと3 Xの合力ではないことはご了承ください。

Good School 3TRX Model



©HONMA

2010年10月18日月曜日 2:35 AM イノベーション

### 「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」の意味するコト

☆カナロコ 8月13日(土)4時0分配信 によると、

「いじめ、暴力、不登校など従来行ってきた個別対策を再構築し、県内すべての学校や地域で子どもの笑顔があふれることを目指す「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」が発足し12日、第1回会議を横浜市神奈川区のかながわ県民センターで開いた。

2010年度の文部科学省調査で、県内の小中高のいじめ解決率は63・6%で全国ワースト2。千人当たりの暴力発生件数は8件（全国平均4・4件）、同不登校は14人（同11・5人）。」

☆同推進会議は、次の3つのプロジェクトを推進する。

- (1)魅力ある学校づくり（コミュニケーション能力、学力定着など）
- (2)いのち守り合う関係機関との連携（家庭環境、発達課題など）
- (3)支え合う地域との協働（規範意識、社会性）

☆県教育委員会の藤井良一教育長は「知る・関心を持つ・行動する母体として働いてほしい。教師を支え、子どもたちの笑顔と元気の結果として、いじめ、暴力、不登校が減少することを期待したい」と語ったというが、ことは神奈川県のことだけではない。県民にわかりやすくという条件があるから、このような身近な目標の表現になっているが、実に本質的なコンセプトである。

☆というのも、3つのプロジェクトは、より高次のレベルでは、学校の組織をコミュニケーションをベースに構築しなおすということを示唆しているし、思春期の成長について影響を与える家庭やシンクタンクとの関係ネットワークを構築していくということも意味しているし、道徳の発達を研究しているシンクタンクとも構築していくということも指しているからである。

☆これらはまた、従来の学校や教育は、コミュニケーション、成長、道徳の発達などについて十分に認識していなかったということでもある。しかし、認識しなくてもやってこれたのである。道徳や規範、ルールを教育を与える側が考え、それを子供に強制し、それを守らなければ、物理的暴力はともかく、言動による、つまり象徴的な暴力表現（たとえば、パワハラ）で、ペナルティを与えて、なんとかなってきたのである。

☆コールバーグの道徳発達理論で言えば、前慣習段階にあったわけだ。しかし、89年のベルリンの壁が崩壊し、その意味するところは、物理的強制ばかりではなく、象徴的暴力か

らの解放であった。フリー、フラット、フェアという 3 つの F の潮流は、学校教育においては、3 R から 3 X へとシフトした。

☆一方、日本の教育はと言えば、依然として、前慣習段階で、3 F や 3 X のシフトを考慮してこなかった。しかし、イギリスの若者による暴動、エジプト革命、中国高速鉄道事件への大抗議など、3 F や 3 X を市民一人ひとりが使えるモバイルやソーシャルメディアが促進している今日、日本でも生徒の側から学校組織に変更を求める動きが出てきてもよいはずである。

☆それが世界のメディアを騒然とさせている、暴動やデモ抗議という表現ではなく、いじめや不登校という表現であらわれているのが、日本の教育現場かもしれない。

☆同推進会議があわてたデータは、「平成 22 年児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」であるが、果たして問題行動等生徒という表現でよいのだろうか。

☆問題行動を起こさせている社会背景のリフレクションは必要ないのだろうか？必要ないという回答がかえってくるはずだろうが、現状を善として、それを基準に問題行動等生徒だと判断していることは確かだろうから、教育行政のやり方は、前慣習段階にあるといわざるを得ないかもしれない。

☆このように、「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」が喫緊の課題としてとりくもうとしている問題は、神奈川エリアだけの問題ではなく、まだまだ前慣習段階（象徴的暴力組織）のエリア全体の問題でもある。

☆同調査の中に都道府県別のいじめの状況のデータが掲載されている。それをもとに、次の表を制作した。"いじめ件数少ない順" "いじめ件数多い順" "いじめ解消率高い" "いじめ解消率低い順" でランキングをつくり、いじめ件数少ない順ベスト 15 を○、いじめ件数多い順ベスト 15 を×、いじめ解消率高い順ランキング 15 を○、いじめ解消率低い順ベスト 15 を×で表記し、それを予防と解消の項目で整理した。

	いじめ 件数 少ない順	いじめ 件数 多い順	いじめ 解消率 高い順	いじめ 解消率 低い順	予防	解消	段階
佐賀県	2	43	5	40	○	○	慣習段階
宮崎県	3	42	14	32	○	○	慣習段階
滋賀県	6	39	11	34	○	○	慣習段階
沖縄県	7	38	12	33	○	○	慣習段階
香川県	14	31	15	30	○	○	慣習段階
奈良県	8	37	16	29	○	△	過渡段階
三重県	9	36	30	16	○	△	過渡段階
京都府	15	30	28	17	○	△	過渡段階
山口県	19	26	9	36	△	○	過渡段階
福井県	20	25	32	13	△	○	過渡段階
富山県	21	24	8	37	△	○	過渡段階
福岡県	22	23	10	35	△	○	過渡段階
愛媛県	23	22	2	43	△	○	過渡段階
青森県	24	21	7	38	△	○	過渡段階
岡山県	25	19	31	14	△	○	過渡段階
兵庫県	27	18	29	15	△	○	過渡段階
山形県	12	33	23	22	△	△	過渡段階
秋田県	17	28	17	28	△	△	過渡段階
長野県	25	20	25	20	△	△	過渡段階
新潟県	28	17	19	26	△	△	過渡段階
栃木県	29	16	18	27	△	△	過渡段階

	いじめ 件数 少ない順	いじめ 件数 多い順	いじめ 解消率 高い順	いじめ 解消率 低い順	予防	解消	段階
鳥取県	1	44	39	6	○	×	前慣習段階
和歌山県	4	41	42	4	○	×	前慣習段階
島根県	5	40	41	3	○	×	前慣習段階
高知県	10	35	36	9	○	×	前慣習段階
徳島県	11	34	33	12	○	×	前慣習段階
鹿児島県	13	32	40	5	○	×	前慣習段階
埼玉県	32	13	6	39	×	○	前慣習段階
茨城県	36	9	13	31	×	○	前慣習段階
群馬県	37	8	4	41	×	○	前慣習段階
北海道	41	4	3	42	×	○	前慣習段階
熊本県	42	3	1	44	×	○	前慣習段階
石川県	31	14	22	23	×	△	前慣習段階
大分県	33	12	26	19	×	△	前慣習段階
岐阜県	38	7	27	18	×	△	前慣習段階
東京都	40	5	24	21	×	△	前慣習段階
千葉県	43	2	20	25	×	△	前慣習段階
愛知県	44	1	21	24	×	△	前慣習段階
山梨県	16	29	35	10	△	×	前慣習段階
広島県	18	27	37	8	△	×	前慣習段階
長崎県	30	15	34	11	×	×	前慣習段階
大分県	34	11	38	7	×	×	前慣習段階
静岡県	35	10	44	1	×	×	前慣習段階
神奈川県	39	6	43	2	×	×	前慣習段階
岩手県	—	—	—	—	—	—	—
宮城県	—	—	—	—	—	—	—

☆予防と解消の両項目○のエリアを慣習段階、どちらかが○か△、あるいは両方とも△のエリアは、過渡段階どちらかに×がはいっているエリアは、前慣習段階とした。

☆もちろん、慣習段階といっても、あくまで相対的で、自覚しているかどうかはわからない。ただ、教育行政側が一方向的にルールを押し付け、予防もルール通り行っていて、効果があがるというのは、ファシズムの時代ではないから、考えにくいことも確かだろう。

☆表を一瞥すると、いわゆる大都市が前慣習段階のリストに入っている。大量消費、大量生産、大量移動のポストモダニズムの風が吹いているところは、教育行政は意外にも、そのような社会的潮流の負の側面を抑えるために、前慣習段階を強化せざるを得ないのだろうか。だから、思春期を守り抜く教育を行っている私立学校の数も必然的に大都市部に集中するのだろうか。

☆いずれにしても、長崎、大分、静岡、神奈川の教育委員会は、コールバーグの道徳の発達理論を参考にコラボして、政策を講じなければならないだろう。

☆コールバーグについては、麗澤に学べばよいし。モラロジー研究所には、コールバーグも訪れて講演をしているぐらいだ。

2011年8月14日(日) リスクマネジメント

## 中高一貫校 「授業の質を、入学前に知る方法」 03 §3 学校説明会に顕れる授業の質

☆学校説明会に参加して、まず学校の教育内容を知ることが重要であるが、そのあとに幾つかのポイントを振り返ると、授業の質が映し出されているのに気づくだろう。(コンテンツとメソッドの両方の視点を活用するといってもよい。)

☆まずは入試問題の傾向を説明する教師の表現。出題分野と難易度を表現しているだけだと、ふだんの知のアプローチの仕方も、知識の整理を中心とする授業であると想像できる。どこまで考えさせたいとか、論理的思考だけではなく、創造的なところも試してみたいなどという表現をしている教師のふだんの授業は、探求をベースにしていると予想できるのである。

☆そして、入試問題を見てみると、前者の教師の仲間が作成した入試問題は、知識の確認、整理、比較を中心とする問題が多いということがわかるだろう。後者の教師の仲間が作成した入試問題は、仮説を立てる記述問題や気づいたことを書かせる記述問題、実験の条件を説明する問題など、論理的で批判的かつ創造的な思考を記述する問題を出题している場合が多いことに気づくだろう。

☆なるほど、入試問題は学校の顔である。

☆次に、説明会のトークの中で、教師が、参加した受験生や保護者に、問答を投げかけたり、動画でプレゼン(動画をただ流すだけではない)をしたり、パワーポイントで、東大などの入試問題を見せて、保護者と一しょに解きながら、基本は自分の学校の入試問題で出題する思考力問題と変わらないことを解き明かし、保護者に勇気づけたりするコミュニケーション行為を行っている学校は、通常の授業でも同じような生徒と教師の対話のプロセスが流れていると推測できる。

☆また、学校説明会の流れ(シーケンス)が、創意工夫されている学校がある。教育の理念までは、保護者と受験生は同じ場所で説明を聴いているが、そのあとは、別の教室で生徒が体験授業やワークショップに参加できるようになっている説明会などはその典型である。

☆特にポイントなのは、体験授業やワークショップで、大学生や在校生がチューターとして参加しているかどうかである。一斉授業や講義形式というより、チーム学習や議論ができるように机や椅子がサークル形式で配置されているのもポイント。

☆このようなシークエンスの工夫が凝らされている学校の通常の授業は、状況に埋め込まれた学習や探求・議論・編集というシークエンスを構成する 21 世紀型の授業である場合が多い。

☆さて、最後にモチベーションであるが、これは保護者にしても、受験生にしても、最初不安だったものが、解消されて説明会を立ち去れる状況があれば、燃え上がるだろう。また、何度説明会に参加しても、その度に新しい発見があるという説明会だと、通常の授業でも同じように、毎回毎回発見があるわけだから、モチベーションは内燃する。納得そして発見は、押し付けられて生まれるのではなく、自らの思考作業の過程の中から生み出されるからである。

☆結局、良質の授業とは、アプローチにしても、シークエンスやプロセスにしても、モチベーションにしても、思考作業を共有できる知の空間を形成する工夫がされている授業であるということになる。それゆえ、良質授業において、生徒たちの姿は、目を輝かせ我を忘れ、知の世界の中に没頭するフロー状態になっているものである。つまり、授業で、実験室で、スポーツの試合で、視線の向こう側が焦げてしまうのではないかと錯覚するほど熱い視線を投げかけている表情の写真がパンフレット中で最も感動を生むのである。

2011 年 8 月 15 日 月曜日 6:53 PM イノベーション

### 学校説明会に顕れる授業の質

☆《中高一貫校 「授業の質を、入学前に知る方法」 03》で、学校説明会を通して授業の質を予想する観点について述べた。

☆箇条書きに改めると、次のようになる。

- (1) 入試問題の説明表現
- (2) 入試問題の内容
- (3) 学校説明会におけるトークの仕方
- (4) 学校説明会の流れ (展開・シークエンス)
- (5) 気づき&新たな発見の仕掛け

☆そして、結局は、どの項目でも、保護者と受験生という参加する側が、受け身になって聞いているだけでなく、自らも参加して考えているという実感を抱けることが肝要である

と。

☆授業の本質が、ここにあるのはあまりにも自明であるかもしれないが、情報を転記したり、確認するだけで終わっている授業も多い。転記した知識、確認した知識を、あとは覚えるだけだという授業。

☆このような授業が従来型で、21世紀型授業ではないことは広く認知されていることだろう。この授業の質ポイントで、学校の説明会、あるいはそのダイジェストを話してくれる（というよりもっと詳しく話してくださるのだが）学校の先生のお話（インタビュー）から、考えてみたい。

☆もちろん、「学校説明会」「先生のインタビュー」「学校見学」「実態」「評判」というそれぞれのレベルは大いに違うものである。しかし、今のところ、そのレベルの差異を埋めるリサーチをしているシンクタンクは、皆無である。ニーズがないということもあるし、認識していないということもあるが、コストをかけるだけの余裕がないというのが本当のところかもしれない。

☆そういうわけだから、中学入試の市場は成熟していないのである。新聞社に期待したいところだが、塾の視点、偏差値の視点、大学進学実績の視点に依存しているので、なかなか難しそうだ。公立の学校に比べ、私立中学に入学する生徒は7%であるから、新聞社が自前で調査することはできないという事情もわからないわけではない。

☆学校説明会に足を運んでいるのは、マスメディアよりも、実は学校選択者である受験生の保護者である。したがって、この学校選択者が、自ら判断する基準や視点を持てるようになることが、私学市場の成熟を促進する一番の近道なのかもしれない。

☆そういう意味では、聖学院の平方先生、洗足学園の玉木先生、富士見丘の大島先生、世田谷学園の中村先生が、自身の学校をPRするだけではなく、私立中高一貫校の役割とその責任を、パネルディスカッションで、保護者に問いかけをしているコラボレーションは、価値ある行為である。

2011年8月16日（火）授業の質